

基本評価シート

様式

北海道 胆振・室蘭区域

(北海道胆振総合振興局保健環境部環境生活課)

基本評価シート（ニホンジカ）

1. 事業の基本情報

事業名（※1）	北海道指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画（ニホンジカ）		
	令和4年度（2022年度）エゾシカ指定管理鳥獣捕獲等事業委託業務（室蘭市絵鞆半島地域）		
都道府県名	北海道	担当者部・係名	胆振総合振興局保健環境部環境生活課自然環境係
担当者名	荒井 一実、三好 岳志	担当者連絡先	0143-24-9577
捕獲実施事業者	北海道猟友会・構研エンジニアリング受託コンソーシアム（認定を受けている）	予算額（※2）	169,545,000円
		予算額の内捕獲に要する経費（※3）	68,729,000円

（※1） 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2） 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3） 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

○令和4年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 (目標頭数などの数値目標)	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
10頭	11頭	110%

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
69万頭※ (個体数指数: 東部 124、北部 113、中部 163、南部 358)	東部: R8末に個体数指数 50以下 (H23を100) 北部・中部: R13末に個体数指数 50以下 (H23を100) 南部: R8末までに減少に転じさせる	設定していない
狩猟捕獲数	許可捕獲(有害)	許可捕獲(個体数調整)
34,118頭(R3)	29,806頭(R3)	77,437頭(R3)

※令和3年度推定生息頭数。東部（オホーツク、十勝、釧路、根室）、北部地域（空知、上川、留萌、宗谷）、中部地域（石狩、胆振、日高）の合計。南部地域（後志、渡島、檜山）は、これとは別に3~15万頭の間と推定

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

H9以降、道が策定した「エゾシカ保護管理計画」（H27以降「エゾシカ管理計画」）に基づき、狩猟期間の延長や可猟区域の拡大、雌ジカ捕獲制限の緩和、一斉捕獲の実施、モニタリングに基づく個体数指数を用いたフィードバック管理の推進等の対策を進めてきた。

2. 令和4年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	<p>エゾシカによる被害を防止するため、個体数の削減に取り組んできた結果、生息数は平成23年度の約77万頭から、令和3年度は約69万頭まで減少したと推定しているが、いまだ高水準にあり、農林業被害も依然として深刻な状況。また、採食や踏み付け攪乱による表土流出や生態系への影響も懸念されている。</p> <p>さらに近年では、捕獲圧の高まりにより、鳥獣保護区などにエゾシカが逃げ込むなど捕獲困難な状況が見られる。</p> <p>このため、鳥獣保護区や自然公園など、市町村等による捕獲が困難な箇所において、道が計画的にエゾシカの捕獲を実施する。</p> <p>【選択欄】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乘せした。</p> <p><input type="checkbox"/> 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。</p> <p><input type="checkbox"/> 効果的な捕獲手法の開発を行なった。</p> <p>※事業実施目的に最も近いものを1つ選択。</p>
人材育成の観点	<p><input checked="" type="checkbox"/> 人材を育成するための配慮、取組がなされている。</p>
実施期間	令和5年2月17日～令和5年3月30日(※委託期間)
実施区域	<p>胆振・室蘭地域(室蘭市経綫半島地域)</p> <p>[地球岬鳥獣保護区、測量山鳥獣保護区、室蘭特定猟具使用禁止区域(銃)]</p> <p>近年、鳥獣保護区から近隣の市街地や港湾施設へのエゾシカの出没が確認されており、生活環境被害や交通事故等の発生が懸念される。</p> <p>また、特定猟具使用禁止区域(銃)に指定されており、住宅地と山林が近接しているため、狩猟が難しい地域である。</p> <p>※1:実施区域の特徴も記入</p> <p>※2:事業計画の地図がある場合は、図面を添付</p>
関係機関との協力	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省北海道地方環境事務所:実施区域に係る希少種等の情報提供や捕獲事業における情報共有を図る。 ・林野庁北海道森林管理局(後志森林管理署):捕獲事業における情報共有を図る。 ・室蘭市:地元関係機関、地権者等との調整や現地確認、手続き等に対する助言・協力をを行う。 ・北海道立総合研究機構(エネルギー・環境・地質研究所及び林業試験場):捕獲方法や分析等の助言など効果的な事業実施に向けた連携を図る。
事業の捕獲目標	<p>(110% 達成)</p> <p>= (11頭 実績値) / (10頭 目標値)</p>
捕獲手法	<p>【銃猟】</p> <p><input type="checkbox"/> 誘引狙撃 <input type="checkbox"/> 巻き狩り <input type="checkbox"/> 忍び猟</p> <p><input type="checkbox"/> モバイルカリング <input type="checkbox"/> 夜間銃猟</p> <p><input type="checkbox"/> その他()</p> <p>【わな猟】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> くくりわな <input type="checkbox"/> 箱わな <input type="checkbox"/> 囲いわな</p> <p><input type="checkbox"/> その他()</p> <p>※1:各種猟法の定義は〇ページ参照、※2:複数チェック可</p>
捕獲個体の確認方法	<p><input checked="" type="checkbox"/> 個体の身体の一部(耳、尾など)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 写真(証拠写真は、捕獲者・捕獲個体・捕獲情報を記載したホワイトボード等を撮影することとし、またGPS機能付きのカメラ(スマートフォンを含む)で撮影し、データも併せて添付する。)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> その他(捕獲現場にて立会)</p> <p>※複数チェック可。</p>

捕獲個体の処分	<p>捕獲個体の処分について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 全て焼却又は埋設を行っている。 <input type="checkbox"/> 一部、食肉等への活用を行っている。 <input type="checkbox"/> 一部、放置を認めている。 ※複数チェック可
環境への影響への配慮	<p>わなによる錯誤捕獲について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の情報を収集している。 <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の実態は不明である。
	<p>わなによる錯誤捕獲の未然防止について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策をしている。 （内容：締め付け防止金具を調整したほか、こまめな見回りと ICT 機器の使用により錯誤捕獲があった場合には速やかに対応できるようにした。） <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策はしていない。
	<p>鳥類の鉛中毒等について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例がない。 <input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。
	<p>鉛製銃弾について（銃器の使用なし）</p> <input type="checkbox"/> 全て鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 一部、非鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 全て非鉛製銃弾を使用している。
安全管理の体制	<p>捕獲実施に先立ち、受託者が作成する「捕獲作業計画」において、連絡体制や実施体制、緊急連絡体制図、周辺住民等に対する周知体制、及び事故防止に向けた捕獲時の現地立ち入り規制体制等を記載させた。 受託者の内部にあっては、上記で定めた安全管理体制に基づき、従事者全員がそれぞれの役割を把握できる体制を構築させた。 捕獲事業の実施にあたっては、予め捕獲場所、実施期間及び捕獲手法について市や警察署等の関係機関と調整会議を開催し、地域住民等にチラシを配布するなどにより周知を図らせた。 捕獲事業の実施期間中は、実施区域へ立ち入る際に腕章を着用し、捕獲事業者であることを明確にした上で、捕獲地点周辺への関係者以外の立ち入りを規制した。 また、従事者のみならず、地域住民等の第三者の安全の確保に努めるとともに、労働安全衛生法等関係法令に基づく措置を講じた。当該事業地では銃器の使用が制限されることから、十分な装備、体制のもと、電気止めさし器による止めさしを実施させた。</p>
捕獲従事者の体制	<p>【雇用体制】 捕獲従事者数： 12 人 作業従事者数： 6 人 （内訳） 正規雇用者：7 人、期間雇用者： 人 日当制： 11 人</p>

3. 令和4年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標達成】	<p>評価：事業対象地は特定猟具使用禁止区域に指定されているほか、鳥獣保護区の指定区域もあり、エゾシカの捕獲及び狩猟が行われていない地域のため、効果的な捕獲方法の検討を大きな目標とした。</p> <p>他地域における過去の捕獲事業の実績から誘因餌を使用したくくりわな</p>

	<p>による捕獲を行うこととし、自動撮影カメラによる事前調査の結果も踏まえて捕獲期間を 20 日間程度、目標わなかけ日数を 600 日基以上、目標捕獲頭数を 10 頭とした。</p> <p>3 地点に合計 30 基設置した結果、20 日間で目標捕獲頭数を上回る 11 頭の捕獲となり、当該地域における誘因餌を使用したくくりわなによる捕獲が効果的であることが示唆された。</p> <p>改善点：当該地域におけるエゾシカの推定生息頭数はわかっておらず、事前調査の結果を踏まえた捕獲目標頭数を上回る捕獲結果となったことから、想定以上の生息頭数となっていることが考えられる。</p> <p>今後、生息状況調査を継続するほか、住民の目撃例などからエゾシカの生息地域や移動経路の把握に努め、より適切な捕獲目標の設定を目指したい。</p>
<p>【実施期間】</p>	<p>評価：自然下の餌資源が減少する積雪期に誘因餌を使用した捕獲を行うこととして冬季の捕獲事業としたが、捕獲開始後、短期間で気温が上昇して融雪が進んだ結果、捕獲期間のほとんどが積雪のない状況となった。</p> <p>しかし、結果としては融雪によりエゾシカの行動範囲が広がったことや雪による誘引餌の埋没がなく、誘引された個体が増えたことで捕獲目標の達成に繋がったと考える。</p> <p>改善点：過去の実績から誘因餌の効果が高い積雪期の捕獲としたが、融雪後の行動範囲の拡大など誘因餌以外の要因も影響していると考えられる。</p> <p>当該地域は鳥獣保護区に指定されている区域があり、4 月～10 月頃は自然下の餌資源が豊富であると考えられるため、積雪前の 11 月～12 月から融雪後の 2 月末～3 月までを調査・捕獲期間とするなどして、より効果的な期間設定ができるようにしたい。</p>
<p>【実施区域】</p>	<p>評価：事業対象地は特定猟具使用禁止区域に指定されているほか、指定されていない地域についても、住宅が隣接しているなどの理由からエゾシカの捕獲対策が進んでいない。</p> <p>本事業により市街地近傍などにおける安全で効果的な捕獲手法が検証されれば、当該地域における捕獲対策の推進につながることから、同一地域での継続実施が有効と考える。</p> <p>改善点：自動撮影カメラを用いた事前調査（～11 月）でエゾシカの利用が確認された地点を捕獲地点としたが、捕獲期間中に非積雪期と積雪期で利用状況が異なる様子が観察された。</p> <p>土地使用許可等の観点から、市有地に限定した事業実施としたが、エゾシカの地域利用状況の把握には民有地での事業実施も必要と考える。</p>
<p>【捕獲手法】</p>	<p>評価：1 頭目の捕獲が誘因餌の設置から 3 日後であったことから、当該地域に生息するエゾシカは人慣れが進んでいることが想定され、また、捕獲活動</p>

	<p>が活発ではないことから、わなを警戒するスレジカも少ないと考えられる。</p> <p>以上から、当該地域における誘因餌を使用したわなによる捕獲は有効であると考えられる。</p>
	<p>改善点：住民のほか、観光客の利用も多く、人目につきにくい場所が少ないため、使用するわなやその設置場所は慎重に設定したい。</p> <p>また、学校跡地や住民等の利用が少ない公園などのまとまった土地があることから、これを利用したくくりわな以外の方法による捕獲も検討したい。</p>
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	<p>評価：高い捕獲技術を有する団体と、調査やデータの取りまとめ及び結果の考察等を得意とする団体とがコンソーシアムを構成して受託したことから、十分な体制であったと考える。</p>
	<p>改善点：コンソーシアムによる事業実施となる場合には、コンソーシアム構成員間の連絡体制を確実に構築させる必要がある。</p>
【個体処分】	<p>評価：くくりわなで捕獲した個体を電気止めさし器により止めさしをしたことや、事業地近傍に捕獲個体を有効活用できる施設がないため、有効活用が難しく、全頭が一般廃棄物処分となった。</p>
	<p>改善点：当該地域は銃猟が禁止されているため、捕獲及び止めさしの方法に限られる。ペットフード等のほか、肉以外の利用もその可能性を検討したい。</p> <p>また、当管内は有効活用のための処理施設が少ないため、地域的なエゾシカ捕獲個体の有効活用を推進し、処理施設等の設置を期待したい。</p>
【環境配慮】	<p>評価：当該地域では所有者不明の猫やキツネ、アライグマなどの生息が確認されており、特に猫の錯誤捕獲が心配されたため、くくりわなの感度を低く設定する、締め付け防止金具を調整し作動時のわなの径を大きめにするなどの対策を行った。これにより、錯誤捕獲の発生はなかった。</p> <p>また、アライグマの錯誤捕獲が発生した時に備え、捕獲許可を得て適切に対応できるようにした。</p>
	<p>改善点：当該区域では、同様の配慮を継続する必要あり。</p>
【安全管理】	<p>評価：わなを用いた捕獲事業としては、周辺住民へのチラシや回覧板を使用した周知のほか、わな設置場所の周辺とわな近傍にロープ及び看板を設置して注意喚起したところ、事故等は発生せず、また、捕獲活動への苦情等もなかった。</p>
	<p>改善点：同様の配慮を継続する必要あり。</p> <p>なお、一部地点で看板等へのいたずらが確認されたため、地元警察署と協力してパトロールを実施する等検討したい。</p>
3. その他の事項に関する評価及び改善点	

4. 全体評価

住宅地や観光地が隣接する環境で、事故等なく捕獲目標を達成できた。

エゾシカの生息域と人口密集地が近いことから、エゾシカの人慣れが進んでいることが想定され、今後も住宅地等への出没が想定されることから、継続して事業を実施する必要があると考える。

また、道が実施するライトセンサスの結果等から、当該地域の北部を中心にエゾシカが多数生息していることが想定され、より広域で捕獲活動を行うことが望ましい。

しかし、予算に限界があることから、事業結果を速やかに地元自治体に提供するなどして地域の捕獲活動の活発化を目指したい。

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

市などによる許可捕獲（有害駆除）等が実施されていない箇所を実施したことにより、当該地域における生物多様性への影響の軽減及び市街地への出没の減少による被害防止に寄与する事業となったと考える。

自動撮影カメラによる生息状況調査に加え、捕獲地点をより広域かつ多く設定するなどして、より効果的な捕獲方法を検証し、これを周知することで、当該地域における捕獲対策の活発化が期待される。これにより道エゾシカ管理計画の管理目標達成に寄与することと考える。

4. 必須となる記録項目

(1) データの整備状況

ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	<input checked="" type="checkbox"/> 行政区域（都道府県・市町村）ごと <input checked="" type="checkbox"/> 事業区域ごと <input checked="" type="checkbox"/> 5 km メッシュ <input type="checkbox"/> 1 km メッシュ <input type="checkbox"/> 捕獲地点（緯度経度） <input type="checkbox"/> 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲した個体の総数 <input checked="" type="checkbox"/> 雌雄の別 <input checked="" type="checkbox"/> 幼獣・成獣の別 <input type="checkbox"/> その他捕獲した個体に関する情報 ()	

③目撃数	<input checked="" type="checkbox"/> 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	<input checked="" type="checkbox"/> 銃猟：のべ作業人日数※ <input checked="" type="checkbox"/> わな猟：わな稼働日数 (わな稼働日数=わな基数×稼働日数)	

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）※についてチェック
捕獲位置の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> CPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する上での課題	特になし

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

(2) 実施結果（必須となる記録項目）

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数※1： _____ 人日

事前調査人日数概数※2： _____ 人日

出猟（捕獲作業）人日数： _____ 人日

項目	令和4年 (事業年度の値)	令和3年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（銃猟） のべ人日数	_____ 人日	_____ 人日	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数※1： _____ 104 人日

事前調査人日数概数※2： _____ 4 人日

出猟（捕獲作業）人日数： _____ 100 人日

項目	令和4年 (事業年度の値)	令和3年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量(わな猟) わなの稼働総数(わな基 ×日数)	600基日 (事業初年度)	0基日	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟(捕獲作業)人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項目	令和4年 (事業年度の値)	令和3年 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	頭	頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②目撃数	頭	頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和4年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別(銃器)の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数※1	CPUE※2	SPUE※3
<input type="checkbox"/> 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 巻き狩り	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 忍び猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2:CPUE=捕獲数/のべ人日数

※3:SPUE=目撃数/のべ人日数

※CPUE、SPUEは前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

②わなによる捕獲

項目	令和4年 (事業年度の値)	令和3年 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	11 頭	- 頭	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)	0.81 (9/11)	-	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)	0.09 (1/11)	-	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和4年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数 ^{※1}	CPUE ^{※2}
<input checked="" type="checkbox"/> くくりわな	11 頭	600 基日	0.018 頭/基日 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 箱わな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 囲いわな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:わな稼働総数には捕獲を実施していない誘因期間は含まない。

※2:CPUE=捕獲数/わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数: 4 人・時間

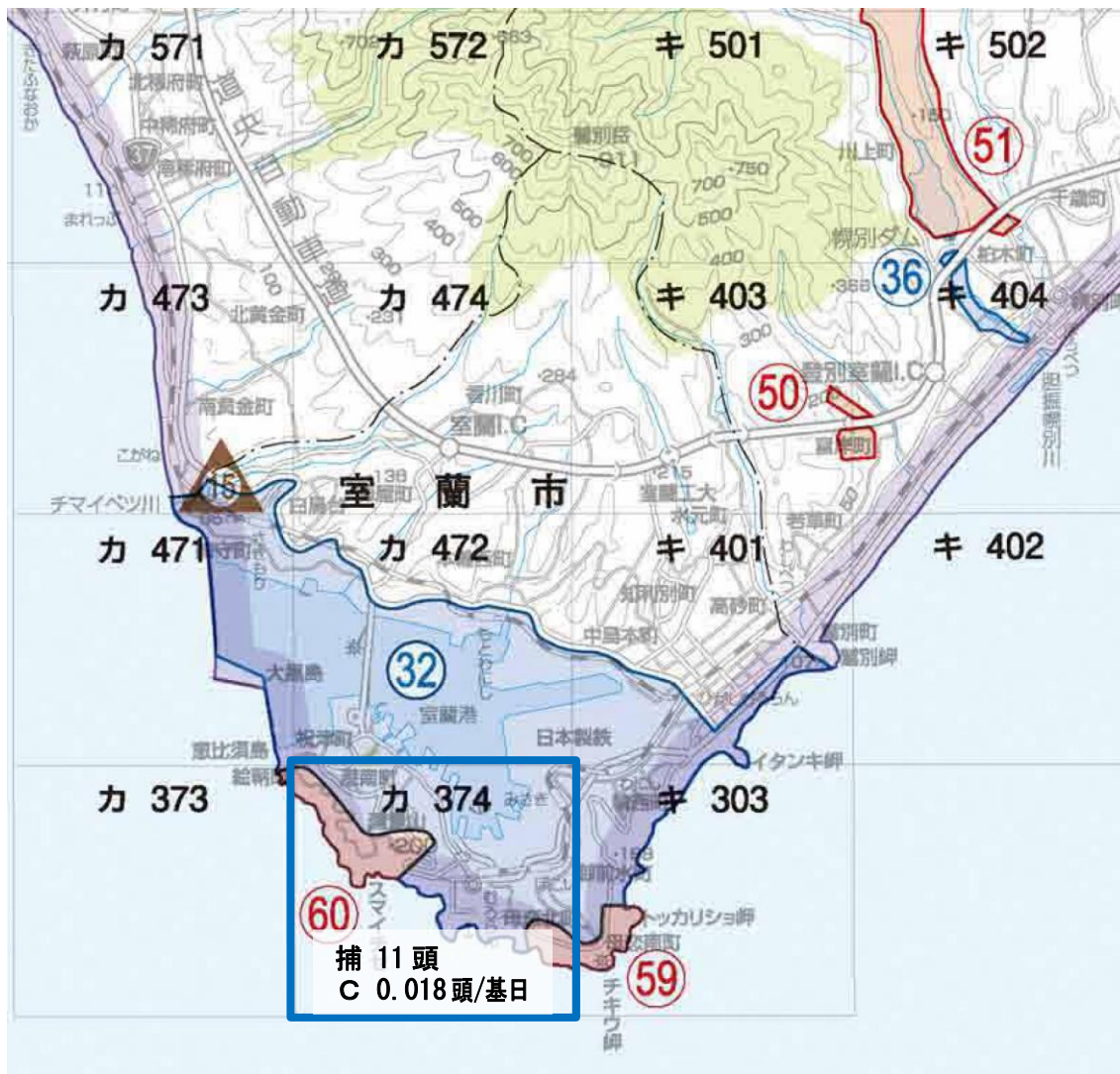
処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数: 0 個体

適正な捕獲が実施されたかを確認する手法

実施日時を作業日報に記載するとともに、捕獲個体毎に写真付きの捕獲個体記録票を作成させたほか、捕獲した個体はその全頭について、発注者による現地確認を実施した。

捕獲した個体については、受託者が地元自治体や有効活用事業者等と調整し処理することとしており、廃棄物処理としたものは処分票や領収書等の記録を報告させた。

基本評価シート4（1）イ）に付随する概況図
 （胆振・室蘭区域）



北海道「令和4年度（2022年度）鳥獣保護区等位置図」より

【メッシュ番号】

カ374：わな猟（くくりわな）

（凡例）

捕：捕獲数

C：CPUE

北海道指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画【胆振・室蘭区域】

【位置図】



【区域図】

